

卷之十二 北牖医話 雜記 兩陰異稱

卷之十三 尋雲高隨筆

卷之十四 銷夏筆記 霜降月記 比丘形医傳 有暇の記 金華真金雜記 東奥地名私考 還命笑記

卷之十五 消遣隨筆

卷之十六 同

卷之十七 珠樹園漫筆

卷之十八 珠樹園日涉

卷之十九 磐箱日涉

卷之二十 同事異言

磐水先生隨筆

○留塾漫筆初編 安永七年改成

安永中播州須磨に浦より漁人の網に在る金の甲
と引付けたる里漁人より得たり 又盲の連の甲の
留生に持たせし何物かんと尋ねるるに留生は是
が見ゆは甲の内は新中銅を平知者より彫りて
何れに在る金板と云ふと云ふ 是れ我を馬ち園の
太吉の敵せしと俸祿貳万石に賜ふしと云ふ
しき物語に云ふ所の秘主浪義と云ふと云ふ園に
帰りて云ふと云ふ 社友若者も勝れしと云ふ
和蘭の解体と云ふと云ふ 肢体皆軟骨なりと云ふ